

令和3年7月9日

太陽光発電を考える会
事務局 渡辺 裕成 様
御子柴 啓明 様

名取重治

「公開質問状」について（回答）

令和3年6月24日に頂戴しました表記の券につきまして、以下のとおり回答いたします。

（1）反対署名、区決議の重みと役割をどのようにお考えになりますか。

署名を集められた呼びかけ人の方々の熱意、署名をなされたみなさんのお気持ちは重く受け止めさせていただきました。また近隣の関係区意見の結果も承知しております。

本計画は現在許可申請前の段階であり、今後申請書が提出された場合は、反対される署名、区の決議を重く受け止め、条例の基準に従い、慎重に対応していきたいと考えています。

（2）太陽光発電計画に住民が反対するとき、開発をストップさせる方策に住民と共に探るお考えはありますか。

「住民が反対」する客観的で合理的な理由（要因）があるならば、住民の皆さんのご意見を伺い検討することはやぶさかではありません。しかし、事業者においては、財産権や営業の自由といった憲法上・私法上の権利を有するものであり、これと住民の太陽光発電事業に対する様々な権利（防災や景観など）との調整を考える必要があります。

最初から開発をストップさせると決めつけた方策をとることが出来ない点をご理解下さい。

（3）トラブルを未然に防ぐために、太陽光発電の規制強化、条例の改定を早急に進めるお考えはありますか。

トラブルを未然に防ぐ目的で令和元年10月に町独自の条例制定を行いました。この条例では、説明会等による対話を事業者には義務付け、相互理解を醸成し地域と共生する事業となるよう促しております。全国的に見てもかなり厳しい規制を敷いていると認識しております。施行後2年ほどが経過しましたが、一定の効果が生じていると考えております。

今後はより公平・公正な審査を行うため、条例改正等については研究しているところです。

(4) 環境に配慮した再生可能エネルギーを推進する具体的政策をお持ちですか。

現時点で具体的な政策はございません。

しかし、自然環境を生かした再生可能エネルギーは、社会を継続的に維持し発展させていくためになくしてはならないものと認識しています。

また、長野県において、地球温暖化対策及び環境エネルギー政策を推進するための計画「長野県ゼロカーボン戦略～2050 ゼロカーボン実現を目指した2030年度までのアクション～」が今年6月に策定されたことから、富士見町においても行動計画を共有しながら進めてまいります。